

## 最明寺入道（北条時頼漫遊）

先づ正嘉年間（一二五七―一二五九）に最明寺入道が諸国行脚折に

この土地へ渡らせられ暫し八輔（田中八郎平）方に在せられしと其が折に最明寺殿はこの土地の風景は故郷

相模の鎌倉にさも似たる所ありとて此村を鎌倉

と名付け、富所の山名に東に烏ヶ森、西に日高山と名附けられたり。

尚に最明寺殿は自ら自身の像を彫刻せられた

此の場所に檜の若木を植えられて御発足なされた

と然れには直ちに質素な御堂を建て御自作の

石像を御安置して毎年御祭を行たりしが

数年を経て八輔の発起で御堂の再建を村民に

諮り賛意を求め善助（中川善右エ門祖先）は率先し

て近郷へ奉加して建立の資に努め竣工の式に

八輔は村民を代表して斯くの建立を見るは善助の働きに依り

御堂の美麗なるは近郷に比無かしを以て